

「久しぶりによう笑ろたワ～」

楽しんで頂き 疲れを忘れました 橋本 敏代 (健福19)

演芸チームはマジック、腹話術、民謡と芸達者ぞろい。馴染みの少ない手話ソングが果たして喜んでもらえるのか…と正直迷いながらの参加でした。「どんな曲にしようか」・・・被災地ボランティアではいつも選曲に悩みます。結局「春よ来い」「見上げてごらん・・・」など5曲に絞りスタートすると、皆さん思いのほかノリが良くて手がよく動き嬉しくなりました。「いつでも夢を」を流した時は、自称「サユリスト」の男性が「あ～懐かし

いなあ～♪」と楽しそうに全曲歌ってニコニコ顔でした。

意外にも子供が殆ど居なくて、用意した昔あそびができませんでしたが、「久しぶりによう笑ろたワ～」「楽しかった～ありがとう」の言葉に疲れも忘れて家路に着きました。支援隊の皆様、本当にお疲れさまでした。



担当好み演芸会の

「しんどかったが楽しかった」

20期食文化たこ焼き隊 根角 光宣 (食文20)



2019年2月23日に「グループわ」支援ボランティアの一員として岡山県倉敷市真備町仮設団地へ行き、「たこ焼き」を馳走してきました。実は我々20期食文化卒仲間の被災仮設団地への支援ボラは2016年11月中旬に行った熊本地震の益城町へのボラに続いて2度目でした。益城町の場合は地震災害でしたので、家屋の倒壊や道路の陥没や隆起があり、一目で災害のひどさがわかりましたが、真備町は川の氾濫による家屋水没被害が殆どで、一見では家屋は建っているのだから分かりませんでした。よく見ると1階部分は外壁も間仕切り壁も取り払われた素通しで、町内は無入状態でした。

仮設団地の支援では、集会所と談話室の2ヶ所での「たこ焼き」提供なので準備、要員数など熊本時の倍必要となり、若干準備が大変でしたが、出発前日にKSCの調理室が使用できたので何とかできました。集会所での支援は、隣に「551蓬莱」の肉饅とシュウマイが振る舞われ、さらに車載の「布団乾燥機」での乾燥サービスも同時に行われていました。隣が肉饅提供なので、「たこ焼き」の売れ



焼きたての明石焼き、好評でした！

具合が少し心配だったが、行列ができて2～3杯のお代わりを希望する方もおられ、割と人気があったように思います。用意したタコも全部使い切りました。

真備町訪問は早朝7時のKSC集合から夜7時の解散までやや強行軍でしたが、終わってみると熊本の場合と同様「しんどかったが楽しかった」というのが実感です。これからも我々「20期食文化たこ焼き隊」は、要請があれば日本全国どこへでも出向くつもりです。

復興サポート隊メンバー 16名 (敬称略)

☆収支報告

- ・収入合計663,720円
内訳：グループわ西日本豪雨災害支援金募金519,500円、兵庫県復興サポート事業支援金144,220円
- ・支出合計290,027円
内訳：交通費214,506円、たこ焼き器、消火器、たこ焼き材料等75,521円
- ・残金373,693円

理事長

水町 亮治(生環18)

お好み演芸会

古後 健一(健福18)

田山 映二(健福22)

橋本 敏代(健福19)

波多野 武郎 (食文16)

明石焼きパーティー

井上 久美子 (食文20)

上田 富美子 (食文20)

大槻 隆文 (食文20)

片岡 泰雄 (食文20)

藏本 公子 (食文20)

夏木 久子 (食文20)

根角 光宣 (食文20)

安部 文隆 (健福21. 理事)

岸野 清美 (健福21. 理事)

九鬼 美代 (音文22. 理事)

広報

浜田 哲夫(生環21. 理事)